

# 耐火木構造部材 木造14階建て可能に

シエルター社長 木村一義氏



木造建築を手がけるシエルター(山形市、木村一義社長、023・647・5000)が開発した耐火木構造部材「COOLWOOD(クールウッド)」。この耐火木構造部材(柱・梁)は2014年11月に2時間耐火の国土交通大臣認定を取得した。建築基準法上は防火地域で14階建てまでの木造ビルが可能になった。「木造」の都市づくりを挑戦する木村社長に取り組みを聞いた。(山形支局長・大矢修一)

「これまでも接合金物を用いて接合部の強度を高める「KES構法」など独自の技術で、木造建築の可能性を広げてきました。新たに木造耐火技術を加えた展開が始まっています。

「『木造都市』をつくらうと、各方面に呼びかけている。クールウッド

## 国産材活用 林業6次産業化

市場をつくる

これまでなかった中高層の木造ビルが建てられるようになる。同じ土壌に上がることになった。用途の制限もなくなり、木造建築の可能性は一段と広がる。

クールウッドはどのようにつくられたか。「耐火に關してのアイデアは車を運転しているときにひらめいた。『普通の木材ではないか』とシン

が、右側を木材で覆った。核となるのサンドイッチ構造となつた。ポイントには右側を表面に貼るのではなく、中に一定の厚み材を右側で囲む木材の厚み。ここがノウハウである。試験を繰り返して

及んでいる右側を表面に貼るのではなく、中に一定の厚み材を右側で囲む木材の厚み。ここがノウハウである。試験を繰り返して

耐火木構造部材「COOLWOOD(クールウッド)」



## 地方創生で存在感

国内初の接合金物工法「KES構法」の開発など、木にこだわりをもち続けたシエルター。「2時間耐火技術」を確立し、新しい市場を切り開こうとしている。創業以来、物まねをせず、独自の道を歩んできた。木村社長は「『創造・革新・挑戦』がシエルターのDNA」と強調する。林業の6次産業化のビジネスモデルは「ワイン・ワイン」の実践。地域の林業、製材、設計事務所、施工業者らと連携して地域活性化に取り組み。地方創生の流れの中で、その存在感が高まっている。



て、最適な厚さが分かった。開発の狙いはどこにあるか。木造耐火建築協会(会長 木村一義)を設立した。クールウッドの加工は特殊な材料や工具を必要としない。生産や加工用でできるような素材を選定しない。杉をはじめヒノキ、カラマツなどが使える。集材材も使え、国産木材の利用拡大による林業の振興による地方創生を促したい。

「普及に向けて、どう取り組みますか。『昨年12月には『日本